

全国大学書道学会 会報

3

平成17年 (2005)
3月31日発行
全国大学書道学会

全国大学書道学会徳島大会 報告

徳島大会事務局

平成十六年度全国大学関係三学会は、十月八日～十日、四国大学が中心となって、徳島市で開催。終了後、その成果に対して、全国大学書道学会小木良一会長及び野中浩俊理事長から、それぞれ懇切な書状をいただいた。また、多くの参加者からも、「空前絶後の大会運営」といった過分の賛辞までも頂戴して、関係者一同、開催の責を果たしたと喜び合ったことであつた。

△大会成功の要因▽

1、初めての私学の担当であつたが、次のようなことから事前に大会開催要件の大体が把握され、不安が少なかった。

①一年前に開かれた三学会合同役員会に大会主任（久米）と事務局担当（辻）とが出席。前回の反省及び課題の大体が把握できた。

②過去三回分の開催大学事務局記録（上越大、静岡大、福岡教育大）のフロッピーの引き継ぎがあり、担当大学ごとの様子の詳細が事前

に分かった。

③本学に、前任校で開催体験のある教員が、多数居た。富田（岡山大）豊島（福教大）杉村（京都教大）久米（千葉大）

2、近隣の大学との協調が得られ、役割を分担して下さったお陰で仕事の輻輳がさけられた。

学会の際、毎回、併催の会員作品展の事務が輻輳して混乱しやすいとされてきていた。今回はそれを徳島大学東南光教授と同研究室院生が分担して下さった。お陰で、作品受付、表装、作品集、会場設営等の諸事を切り離して進めることができ、会計上でも混乱することがなかった。

3、地域社会の理解と協賛を得ることができた。

徳島開催ということが一年以上も前に分かっていたので、文学書道館および徳島城博物館に協賛行事の組み入れをお願いすることができた。前者では、収蔵の中林梧竹と小坂奇石の作品展示をお願いでき、後者では、貫名松翁の書画のコナーを用意してもらえた。併せて、故田中双鶴前会長収蔵の貫名松翁書名品展も同時開催することができた。

4、願ってもない会場に恵まれたことが、成功の最大の要因。

（1）今回、会場として使用した「四国大学交流プラザ」は、四月に開館したばかりで、この種の学会等に使うことは初めてだった。（実は、この施設ができるということで大会を引き受けようという話になった、という裏話もあった。）大ホール、第一セミナー室、第二セミナー室、ギャラリー、会議室等、学会にうってつけの施設をもち、しかも、それらを使用料を気にすることなく活用できるという便益はめったに得られることではない。

（2）但し、使い初めということから、いくつかの制約があつた。「禁煙」と「飲食の禁止」等がそれ。不自由をおかけしたことをおわび

申し上げたい。

(3) 近隣の文学書道館、徳島城博物館、さらにはホテル等がすべて五十分程度という恵まれた位置環境にあったことも、成功の要因であったといえる。

5、内容に新趣向をこらしていたこと。

(1) 研究発表では、次の点が注目された。

①研究発表が年と共に増加。今回も十六件。午前三会場、午後二会場と充実していた。

②但し、一件が病気により辞退されたのは止むを得ないとして、一件は資料が遅れて未着のため発表中止となり、残念であった。当番大衆としては何とも口惜しい思いがした。

③若い世代の発表者が増えていて頼もしさを覚えさせられた。年輩会員からは、「内容も多彩となり、新しい切り口が出てきて、うかうかできなくなった」という声も聞かされた。

④記念講演について、今回は地元徳島に絡めて、日野俊顕氏と杉村邦彦氏によるリレー講演という新趣向が見られた。しかし、時間的に制約を余儀なくされて申し訳なかった。この時の参加者は約二百名に達し、盛会であった。

⑤会員作品展(七九点)は、地方にとっては多彩な作風に接することができる場ということで大歓迎であった。出品層については、世代の交代期だと痛感。新世代の出品が増えて、益々の充実へと向かうよう期待される。

6、圧巻だった懇親会の総踊り

田村実教授の名セリフで始まった懇親会。東南光教授の巧みな司会のもと、序幕は、徳島ならではの人形浄瑠璃一座の名演をしんみりと聞かされる中で導入。挨拶とスピーチで和みつつ懇談に移り、最後は、地元の有名連による阿波踊りの諸演舞のあと、巧みなリードに促され

全員総立ちで、会場は阿波踊りの演舞場と化した。本学の教員でさえ

「全員残らずの総踊りでこんなに興奮したのは初めて」というほどの盛り上がりだった。参会下さった全会員のご協力に対し、感謝の念一入。

7、外は台風二二号の暗雲、会場内は快晴の三日間。

(1) 当地は、例年になく台風の当たり年。学会直前から台風二二号が直撃すると予報されて、関係者は「誰が台風男(女)なのか？」と青息吐息だった。そんな心配の中、参会の先生方が暗雲を吹き払うかのような勢いを持ち込んで下さって、風雨を太平洋上に押しやってくれた。空模様こそ暗くて風の強い三日間だったが、「交流プラザ」の中は快晴で熱気いっぱいの学会だった。



小木会長の挨拶

(2) 「天の時は地の利に如かず。地の利は人の和に如かず。」とか。天の時には少しばかり恵まれなかったが、空港にもJRの駅にも近いという地の利と会場に恵まれ、何よりもご参会の先生方の和に恵まれて、私たちには「開かせていただいて良かった」という思いでいっぱい。「平成十六年度三学会」だった。

「ありがとうございます」と申し上げて擱筆し、次年度の千葉大会へとバトンをお渡しすることとする。



四国大学交流プラザにて



会員作品展



【記念講演概要】

徳島大会では、午後の発表の前に記念講演会が開催された。その概要を次に紹介する。
(紀要編集担当 鶴田一雄)

一 「梧竹堂法帖」について

梧竹研究会 日野 俊顕

日野俊顕氏は長年、中林梧竹の研究をされ、梧竹研究の第一人者であり、『梧竹の会』を主催されている。同会からは定期的に会報が出ている。

中林梧竹が二度の渡清により招来した『梧竹堂法帖』の現状とその特色について述べられた。なお、徳島県立文学書道館では、『梧竹堂法帖』の特別展が開催された。日野氏は、昭和三八年に金沢市の大友佐一氏から『梧竹堂法帖』を所蔵しているとの知らせをうけ、その調査結果を『大友文庫所蔵梧竹堂法帖目録』として刊行し、その存在が世に知られるようになった。その後、伊藤滋氏や森哲之氏の論考が出されて研究が進んだ。

『梧竹堂法帖』は、全体で三十一帙で、大友文庫が二十九帙、伊藤滋氏が二帙所蔵されている。その特徴は、梧竹が書学上の欲求から蒐集したもので、お手本として買い求めたような気分を感じる。無位無官の一個人が熱意と努力で集めたものである。

第一回渡清(明治一五年一〇月から明治一七年四月)のコレクションは、周の金文から漢、魏、隋までの書が含まれ、唐碑は一件のみである。なお、梧竹の作品は、六朝風の書は帰国後数年間で、明清時代の文人調の風格や六朝風のものが見られる。

第二回の渡清(明治三〇年)のコレクションは、漢碑のみであり、梧竹の目はすでに六朝を離れている。二五、二六帙は「二王古拓法帖」で、帖学派の伝統的な内容で、梧竹は六朝書家ではない。

限られた講演時間の中で、日野氏は長年の梧竹研究の成果を熱く語られた。



二 楊守敬・中林梧竹の師潘存に関する伝記資料

四国大学教授 杉村 邦彦

杉村邦彦氏は書論研究の第一人者であり、『書論』の編集責任者でもある。特に日中交流史について研究をなされている。

今回は、楊守敬や中林梧竹の師である潘存の伝記資料について述べられた。同氏はすでに日本に伝存する潘存臨の「鄭文公下碑」とそれに附された楊守敬の題跋や山本竟山の資料をもとに、「潘存臨鄭文公下碑の伝来とその歴史の意義」を発表した（『書学書道史研究』第三号、平成五年、書学書道史学会）。

その後、楊守敬に関する著作集が中国で刊行されている。また、九月一七日に潘存の遺稿集『潘存公遺集』を入手した。しかし、書名も発行年月も記されていない。表紙と背文字には『潘存公遺言』とあるが、むしろ『潘孺初先生遺集』とすべきである。同書は、シンガポール在住の潘存の一族が私家版として少部出版したもののようで、貴重な資料である。同書の中から注目すべきものを数項目紹介したい。「潘孺初先生哀啓」は、死亡通知であり、珍しい資料である。これらの資料によって潘存の経歴が明らかになってきた。

また、楊守敬と潘存とについて、日下部鳴鶴の『鳴鶴先生叢話』から資料の紹介があった。特に「斬釘截鉄」という語について、潘存と中林梧竹の書にそれが認められる。楊守敬が潘存から伝授された筆法をいかに鳴鶴らに伝えたかを力説された。

豊富な資料を提供され、日中交流史研究の一端を披露され、意義深い内容であった。



平成16年度 全国大学書道学会 徳島大会 次第

- 1) 主 催 全国大学書道学会
2) 開催大学 四国大学
3) 日 時 平成16年10月10日（日）
4) 会 場 四国大学「交流プラザ」（JR徳島駅から徒歩 5 分 空港からバス25分、タクシー20分）
〒770-0831 徳島市寺島本町西 2 丁目35－ 8
〈大会事務局〉〒771-1192 徳島市応神町古川 四国大学文学部書道文化学科
辻尚子研究室 E-mail:takako-tsuji@shikoku-u.ac.jp
tel 088-665-1300（内線 2340） fax 088-665-8037
- 5) 参 加 費 4,000円
6) 日 程 （予定）

次第

9:00 受付

9:30~10:00 総会 (5Fフォーラムホール)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1、開会の言葉 | 野中 浩俊（新潟大学） |
| 2、会場校挨拶 | 四国大学学長 福岡 登 |
| 3、会長挨拶 | 小木 良一（東京学芸大学名誉教授） |
| 議長選出 | 〔富田富貴雄（四国大学）〕 |
| 4、議事 | |
| 1）平成15年度事業報告 | 青山 浩之（横浜国立大学） |
| 2）平成15年度決算報告 | 青山 浩之（横浜国立大学） |
| 3）平成15年度会計監査報告 | 前田舜次郎（元跡見学園女子大学） |
| 4）平成16年度事業計画案 | 青山 浩之（横浜国立大学） |
| 5）平成16年度事業予算案 | 青山 浩之（横浜国立大学） |
| 6）紀要について | 横田 恭三（跡見学園女子大学） |
| 7）日本学術会議東洋学研連について | 横田 恭三（跡見学園女子大学） |
| 8）研究分野について | 野中 浩俊（新潟大学） |
| 9）次年度開催校挨拶 | 浦野 俊則（千葉大学） |
| 10）新入会員紹介 | 事務局 |
| 11）その他 | |
| 5、閉会の言葉 | 鶴田 一雄（新潟大学） |

10:00 研究発表・午前の部（3分科会）

- 【第1会場】 5Fフォーラムホール (4件) 司会 横田 恭三 (跡見学園女子大学)
 【第2会場】 4F第1セミナー室 (3件) 司会 石井 健 (東京学芸大学)
 【第3会場】 4F第2セミナー室 (3件) 司会 鶴田 一雄 (新潟大学)
- | | | | |
|-----|-------------|-----|-------------|
| 発表1 | 10:00~10:30 | 発表2 | 10:30~11:00 |
| 発表3 | 11:00~11:30 | 発表4 | 11:30~12:00 |

12:00 昼食

13:00 記念講演〔リレー講演〕(5Fフォーラムホール)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 「梧竹作品と梧竹将来の拓本資料等をめぐって」 | 日野 俊顕 先生（梧竹研究家） |
| 「楊守敬・中林梧竹の師潘存に関する伝記資料」 | 杉村 邦彦 先生（四国大学教授） |
| 謝 辞 | 野中 浩俊（新潟大学） |

14:40 研究発表・午後の部（2分科会）

- 【第1会場】 5Fフォーラムホール (2件) 司会 東 賢司 (愛媛大学)
 【第2会場】 4F第1セミナー室 (2件) 司会 東 国恵 (徳島大学)
- 発表1 14:40~15:10 発表2 15:10~15:40

15:50 分科会報告〔各分科会の司会者による〕（5Fフォーラムホール）

16:30 閉会の言葉 西橋 靖雄 (大阪教育大学)
挨拶 (会場校から参加者のみなさまへ) 久米 公 (四国大学)

研 究 発 表

平成16年度 徳島大会 発表題目および発表者

〈研究発表1〉

第1会場

- | | | |
|-------------------------|------------|-------|
| 1. 高閑狂草考 | 武蔵野大学大学院生 | 大畠 真奈 |
| 2. 阮元「南北書派論」における「南」と「北」 | 東京学芸大学大学院生 | 草津 祐介 |
| 3. 銭坵の書法への一考察 | 四国大学講師 | 森上 洋光 |
| 4. 魏晋南北朝時代の女性の墓誌に関する検討 | 愛媛大学助教授 | 東 賢司 |

第2会場

- | | | |
|-----------------------------|----------------|-------|
| 1. 北方心泉の書一「文字の交」を考える一 | 東京学芸大学大学院生 | 鈴木 綾 |
| 2. 千字文の研究一その使用と実態について一 | 徳島県立徳島中央高等学校講師 | 大林 佳代 |
| 3. 日本古代「私印」の研究一楷書体の使用に関連して一 | 立教新座中学校・高等学校講師 | 杉山 勇人 |

第3会場

- | | | |
|---------------------|-----------------|-------|
| 1. 高芙蓉の顕彰と墓碑の流伝 | 熊本大学助教授 | 神野 雄二 |
| 2. 河東碧梧桐俳句書の仮名の考察 | 武蔵野大学大学院生 | 菊澤 絵美 |
| 3. 尾上柴舟の「調和體」に関する考察 | 横浜国立大学付属横浜小学校講師 | 柳澤ももこ |

〈研究発表2〉

第1会場

- | | | |
|-------------------------|---------|-------|
| 1. 梧竹を中心とする近世書人に関する資料分析 | 新潟大学助教授 | 岡村 浩 |
| 2. 都府楼三碑の意義 | 四国大学教授 | 豊島 嘉穂 |

第2会場

- | | | |
|----------------------------------|-------------|-------|
| 1. 「伝西行筆」の古筆のデータベース化の試みとその意義について | 広島大学大学院生 | 塩出智代美 |
| 2. 字座における視覚誘導場と体験的表現との矛盾について | 名古屋市立大学大学院生 | 沓名健一郎 |
| | 名古屋大学 | 高田 宗樹 |
| | 静岡大学教授 | 平形 精一 |
| | 愛知医科大学教授 | 岩瀬 敏 |
| | 日本アクサ生命 | 保科 宏幸 |
| | 名古屋大学教授 | 宮尾 克 |

平成15年度 全国大学書道学会活動報告書

(平成15年)

- 5月9日 平成15年度会員票（はがき）・会費振替用紙送付
 5月18日 常任幹事会〔平成15年度福岡大会について〕
 6月上～中旬 会員名簿作成、福岡大会要項（第1次）作成
 6月13日 福岡大会要項（第1次）・紀要・書作品展図録・名簿等送付
 7月10日 本年度大会研究発表応募締切日
 7月中～下旬 発表要旨査読
 8月9日 本年度会員書作展作品締切日
 8月10日 研究発表の許可について通知
 9月20日 常任幹事会〔福岡大会について・研究発表順、会場設定について・総会議事案について・役員改選について・第19期日本学術会議東洋学研究連絡委員会オブザーバー推薦について〕
 10月16日 福岡大会要項（第2次）・発表要旨集等送付
 11月19日 幹事会〔福岡大会総会議事検討〕
 11月20日 平成15年度福岡大会〔総会・研究発表・講演〕
 書道三学会合同懇親会
 11月19～21日 平成15年度会員書作展
 11月下旬～12月中旬 研究発表論文査読

(平成16年)

- 1月～2月 紀要編集
 3月6日 常任幹事会〔福岡大会反省・次年度徳島大会日程について〕

平成15年度 全国大学書道学会決算報告書

A・〔収入の部〕	
1) 平成14年度からの繰越金	1,749,366円
2) 平成15年度会費収入	1,779,000円
合 計 (A)	3,528,366円
B・〔支出の部〕	
1) 総会運営費	104,965円
2) 幹事会費	347,403円
3) 通信費	233,570円
4) 会員書作品展図録代	360,000円
5) 研究紀要代	341,880円
6) 事務費	125,133円
7) 慶弔費	0円
合 計 (B)	1,512,951円

(A) 総収入－(B) 総支出＝ 残 高

3,528,366 － 1,512,951 ＝ 2,015,415 円（次年度繰越金）

上記の通り報告いたします。

平成16年10月10日

全国大学書道学会

監査

前田舜次郎

会計

青山 浩之

平成16年度 全国大学書道学会活動計画

(平成16年)

- 5月8日 常任幹事会〔平成16年度徳島大会について〕
 5月中～下旬 徳島大会要項（第1次）作成
 6月9日 徳島大会要項（第1次）・紀要・会報・書作品展図録・会員票（はがき）・会費振替用紙等送付
 7月1日 本年度大会研究発表応募締切日
 7月中～下旬 発表要旨査読
 7月31日 本年度会員書作展作品締切日
 8月上旬 研究発表の許可について通知
 8月中～下旬 会員名簿作成
 8月25日 常任幹事会〔徳島大会について・研究発表順、会場設定について・総会議事案について・第19期日本学術会議東洋学研連の活動について〕
 9月9日 徳島大会要項（第2次）・発表要旨集・会員名簿等送付
 10月8日 幹事会〔徳島大会総会議事検討〕
 10月9日 書道三学会合同懇親会
 10月10日 平成16年度徳島大会〔総会・研究発表・講演〕
 10月8～12日 平成16年度会員書作展
 10月中～11月中旬 研究発表論文査読

(平成17年)

- 1月～2月 紀要編集
 3月中旬 常任幹事会〔徳島大会反省・次年度千葉大会日程について〕

平成16年度 全国大学書道学会予算

A・〔収入の部〕	
1) 平成15年度からの繰越金	2,015,415円
2) 平成16年度会費収入	1,860,000円
合 計 (A)	3,875,415円
B・〔支出の部〕	
1) 総会運営費	150,000円
2) 幹事会費	400,000円
3) 通信費	250,000円
4) 会員書作品展図録代	360,000円
5) 研究紀要代	400,000円
6) 事務費	170,000円
7) 予備費	2,145,415円
合 計 (B)	3,875,415円

日本学術会議第一九期東洋学研究連絡委員会報告

第一九期東洋学術研究連絡委員会の活動を略述しました。詳細についてはEメールにて東洋学研究連絡委員の横田までお問い合わせください。(メール・アドレス yokota@atomia.ac.jp)

五月二十九日(土) 第一回東洋学術研究連絡委員会

「重要課題別委員会(仮称)の提案」

六月二〇日(日) 第二回東洋学術研究連絡委員会・

将来計画小委員会拡大委員会

「重要課題別委員会(仮称)の提案」

本拡大委員会は、アジア研究に係わる課題を提案するために、五原則を設定し、検討の結果、「グローバル化とアジア」という重要課題別委員会を設置することを、新日本学術会議に対して提案することを決議した。具体的な研究課題を八本立て、この中に「アジアにおける漢字文化と書法芸術」を加えた。

七月二十六日(月) 第三回東洋学術研究連絡委員会・

将来計画小委員会拡大委員会

具体的な研究課題を一部修正。「アジアにおける漢字文化と書法芸術」を「アジアの芸術」と修正し、書法だけではなく、他の芸術分野も加えることとなった。

「平成一八年度科学研究費補助金時限付き分科細目新規設定にかか
る要望について(検討依頼)」適切と思われる案件を一〇月一八日ま
でに、日本学術会議事務局学術課 学術体制常置委員会まで提出。

九月一三日(月) 「科研グローバル化とアジア第一回相談会」
十一月二日(火) 第四回東洋学術研究連絡委員会

議 題

- (1) 拡大将来委員会小委員会の報告
- (2) 日本学術会議総会・連合部会の報告
- (3) ICANAS37の報告

審議事項

- (1) 第二〇期課題別委員会・領域別委員会について
 - (2) 東洋学連絡委員会の設立について
 - (3) 科学研究費特定領域研究の応募について
- 二月二二日(火) 第五回東洋学術研究連絡委員会

議 題

- (1) 東洋学(アジア研究) 連絡協議会設立大会の報告
- (2) ICANAS39準備委員会の報告
- (3) 連合部会・第一部会(二月九日)の報告

審議事項

- (1) 第一部会文書「日本学術会議の新しい体制のあり方に関する懇談会の意見表明について」
- (2) 第一部会報告「人文系の分野における研究業績評価のあり方について」
- (3) 東洋学術研究連絡委員会の今後の活動について

*なお、本委員会の運営費不足に対して各学協会から一口一万円を寄付してほしい旨の提案があり、了承された。

平成十六年度 全国大学書道学会

新入会員

矢萩 喜孝 和歌山大学教授
岡本 直人 帝京大学講師
古木 誠彦 九州女子大学講師
大林 佳代 徳島県立徳島中央高等学校講師

新入准会員

兼平 爵臣 岩手大学大学院
北田 聡美 岩手大学大学院
九澤 亮子 新潟大学大学院
西 絵里子 新潟大学大学院
堀川千夏子 新潟大学大学院
王 力軍 東京学芸大学大学院
草津 祐介 東京学芸大学大学院
中嶋 章乃 東京学芸大学大学院
安原 亜悠 東京学芸大学大学院
西田 健 東京学芸大学大学院
原口真理子 武蔵野大学大学院
柿元 八重 横浜国立大学大学院
石田 真弓 奈良教育大学大学院
渡瀬 仁 四国大学大学院
陳 天 福岡教育大学大学院

.....

事務局

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

横浜国立大学 教育人間科学部

国語・日本語教育講座 青山(書道)研究室内

全国大学書道学会

新入会員推薦のお願い

会員の先生から、新入会員・準会員をご推薦いただき、さらに本会の充実を図りたいと考えております。「規約」と「新入会員用会員原票（入会申込書）」をとじておきましたので、よろしくお願いいたします。

※「新入会員用会員原票（入会申込書）」に記入の上、事務局（下記所在地）まで郵送してください。

※年会費は、会員6,000円・準会員5,000円です。なお、大学院修了後は、会員の資格として扱います。

送金は、必ず郵便振替（青色用紙）でお願いします。（用紙の通信欄に、「新入会員」もしくは「新入準会員」と明記してください。）振込先は下記の通りです。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈事務局〉〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

横浜国立大学 教育人間科学部 国語・日本語教育講座

青山（書道）研究室内

TEL 045-339-3450

全 国 大 学 書 道 学 会

----- キリトリセン -----

全国大学書道学会 新入会員用会員原票（入会申込書）

〔 会員・準会員 〕 どちらかに○

会員番号 ※

—

都道府県名	※平成		年	月	日	入会
ふりがな					ふりがな	
氏 名	印				雅 号	
生年月日	(明・大・昭 年 月 日生 男・女)				最終卒業校	
勤務先			職 名			
勤務先 所在地	〒				電話番号（下段はFAX） () — () —	
現住所	〒				電話番号（下段はFAX） () — () —	
帰省先 (大学院生の方)	〒				電話番号 () —	
推薦者（会員） 及 び 推薦理由						
〔規約第2条に定めた資格に該当するもの（大学教官等）は、記入不要〕						